

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年10月23日（月）

2 確認箇所

監視制御装置（免震重要棟集中監視室）、測定・確認用設備、置換ろ過水供給タンク（K4タンクエリア）、処理水移送ポンプ（多核種移送設備建屋）

3 確認項目

多核種除去設備等処理水希釈放出（「ろ過水置換」工程）の状況

4 確認結果の概要

第2回目の多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）の放出（測定・確認用タンクC群からの放出）は、10月5日に開始され、10月22日にALPS処理水の移送が終了し、本日（10月23日）は、ALPS処理水移送ラインの残水（ALPS処理水）をろ過水で押し流す「ろ過水置換」工程が行われたことから、免震重要棟集中監視室での監視制御装置の操作状況及びK4タンクエリア、多核種移送設備建屋における移送設備等の確認作業等の状況を確認した。

（図1）（前回確認日：令和5年9月11日）

- ・「ろ過水置換」工程の操作は10時09分に開始され、特段のトラブル等の発生はなく、12時08分に終了し、ALPS処理水の第2回目の放出が完了した。なお、今回の総放出量（ろ過水量：25 m³を含む）は、7,810 m³であった。（前回：7,788 m³）
- ・東京電力では、今後、上流水槽の水を下流水槽に排水した後に、上流水槽内部の防水塗装の状態を経過観察するとともに、次回放出時（測定・確認用タンクA群）のタンク群隔離用の電動弁のシート機能が健全であることを確認するとしている。

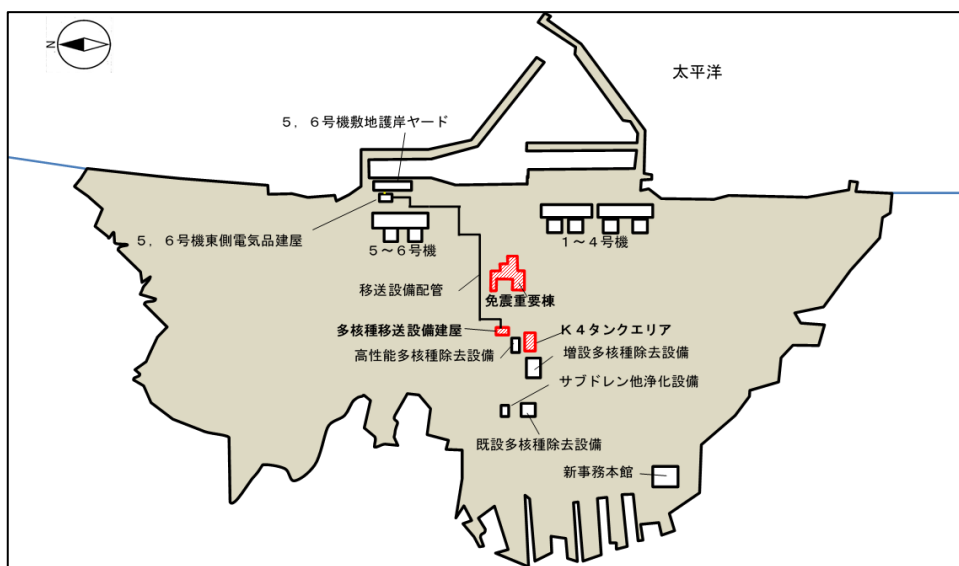
<免震重要棟集中監視室における操作状況>

- ・操作指揮者の指示のもと、操作手順書に従い二人一組の操作員が、復唱及び指差呼称による確認をしながら監視制御装置の操作を進めていた。
- ・系統のライン構成及び現場における弁や処理水移送ポンプ等の確認終了後に、当直長管理の「移送許可キー」を使用して「ろ過水置換」が開始され、ろ過水移送量が25 m³に達したところで処理水移送ポンプが停止して、「ろ過水置換」が終了した。

<現地確認作業の状況等>

- ・東京電力の担当者が二人一組で、ラインの構成を示す書面に従い、ろ過水を貯留しているタンク（置換用ろ過水供給タンク）及び弁の開閉状況等の確認を行っていた。（写真1）
- ・処理水移送ポンプについては、稼働前後において異常がないことを確認するとともに、「ろ過水置換」中、稼働状況を注視していた。

（写真2）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1-1）

K4タンクエリアの概観

（南西側から撮影）



（写真1-2）

置換用ろ過水供給タンク入口弁「全開」の確認状況（北側から撮影）



(写真1-3)
C群タンク (K4-C1) 出口弁
「全閉」の確認状況



(写真2-1)
稼働前の処理水移送ポンプの確認状
況



(写真2-2)
稼働後の処理水移送ポンプの確認状
況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。